



バリューチェーン

研究・開発

バリューチェーンにおける役割

当社グループは、グローバルな研究開発拠点(12ヶ国・21ヶ所)において約1,400名の技術者を擁しています。世界に広がるお客さまへ他社にない独自の価値を提供するために、コア技術(認識・識別技術/メカトロ技術)の進化を図るとともに、新領域事業拡大に向けて新たなコア技術の基盤構築に取り組んでいます。

競争優位性

- 「モノ」から「コト」、ハードウェア開発からサービス・ソリューション開発までの一貫した開発対応力
- コア技術(認識・識別技術/メカトロ技術)やアルゴリズム開発に加え、データアナリティクス、生体認証、センシング技術を組み合わせた多様なソリューションの創出
- 17拠点500名以上のITエンジニアによるグローバルなソフトウェア開発体制の構築
- 積極的なオープンイノベーションによる早期の技術シナジーの創出(M&A・業務提携・産学連携・産産連携)

課題	新領域事業を拡大する新たなソリューション開発の推進	戦略	拡張ビジネスの実現に向けグローバルでソフトウェア技術力を結集し、データフロー連携等による新たな価値を創出
課題	開発効率向上による新領域事業への人員シフト	戦略	グローバルプラットフォームや共通開発基盤の構築によりコア事業の開発効率化を図り、新領域事業への人員シフトを加速

関係する価値の源泉 >>>



人的資本



知的資本



社会・関係資本



財務資本

新価値創造に向けた戦略・施策

海外市場では通貨処理機をクラウド環境でモニタリングする「UBIQUILAR™」を開発し、ご提供しています。お客さまの店舗や事務所で稼働する製品の状態を常時監視し、リモートマネジメントによる設備の最適化や現金利用分析によるプロセスの最適化、警送管理や現金精査の資金の最適化等、あらゆる場面でデータを活用したお客さまへの価値提供を行っております。新たなソフトウェアプラットフォームの構築とともにソリューション開発によるリカーリングビジネス拡大に取り組んでいます。

国内市場では、金融、流通、飲食、遊技の各市場向けにお客さまの店舗DXを推進するため、新たな製品・サービスの開発に注力しています。

例えば、金融市場では、少人数店舗運営を可能にするセルフ化製品や遠隔接客ソリューションの開発を進めています。また、飲食市場においては、オーダーマネジメントソリューション「TOFREE(トフリー)」を開発し、接客・決済からオーダー(セルフ・モバイル)、配膳・注文の自由化とAIによる注文分析も含め飲食店と来店客への付加価値を高めるソリューションの開発に取り組んでいます。

今後の展望

その他、国内の流通市場においてはリテール統合プラットフォームとしてAIを活用したリアル店舗の行動可視化(来客店・商品購入・従業員)に取り組むほか、遊技市場ではセルフ化(無人カウンター)やAIデータ分析を用いた遊技用アプリを開発しています。海外の飲食市場においてはアクレック社と協働し、通貨処理機と組み合わせたセルフサービスキオスクを展開することで、オーダーと決済の無人化と店舗業務の効率化を図っています。

今後もグローバル連携を強化し、コア技術の強みと新たな技術を融合させ、お客さまへの付加価値を向上するソリューション開発に取り組んでいます。

UBIQUILAR™の各サービス



処理機のエラー情報の通知、ログの吸い上げ、ファームウェアやテンプレートの更新を実現する



主にWindowsのセキュリティパッチの配信を実現する



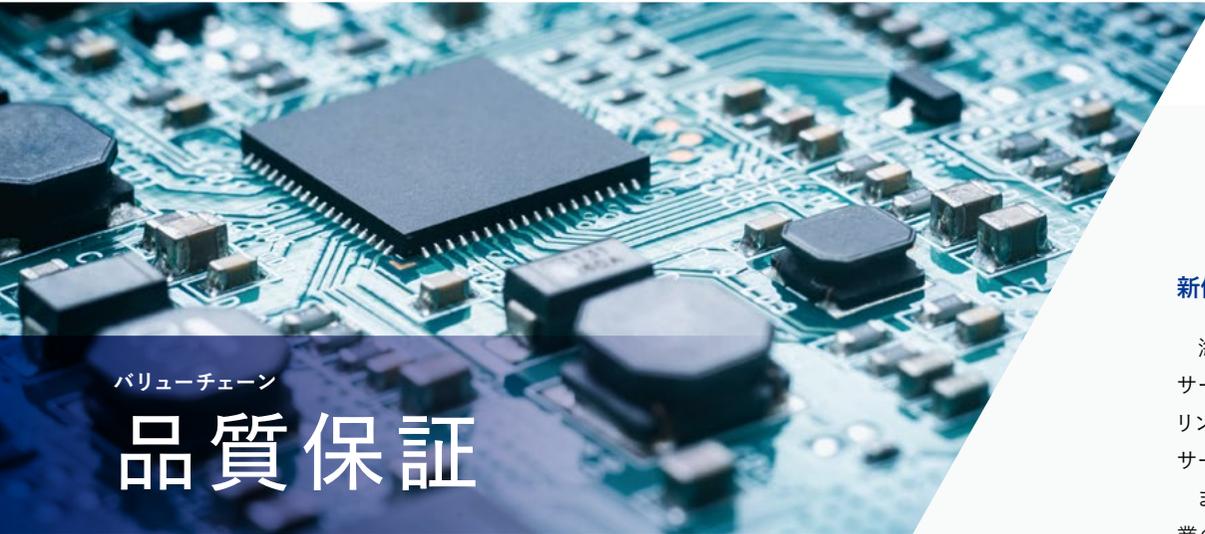
在高情報やトランザクション情報、エラーレポートなど、帳票サービスを提供する



取得した在高情報を基に、警送会社と連携して、店内現金管理そのものを請け負う

TOFREEが実現する店舗DX





バリューチェーン

品質保証

バリューチェーンにおける役割

「品質とは? =顧客満足」と捉え、品質保証部門では、企画・開発段階から入り込み、過去に発生した不具合事例を基に、新製品の仕様や構造に問題が潜んでいないか確認しています。市場出荷後は、製品が品質基準を満たし、安定稼働しているかを監視しています。不具合が発生した場合は、開発部門・保守部門と連携し、速やかに原因を調査し、再発防止策を講じています。

競争優位性

- 品質保証を担う専門部門(国内外合わせて200名体制)により、お客さまの「満足と利益」に貢献
- 品質の確保と迅速な評価を両立した品質保証活動を実現
- フェイルセーフ思想の注入やユーザビリティテスト等を通じ、「安全」と「使いやすさ」の両面を向上

課題

ソリューションビジネス(製品・サービス)の品質保証

戦略

新たな品質保証体制と体系を確立し、新領域事業のソリューションビジネスを安定稼働させるための運用管理を強化・実践

関係する価値の源泉 >>>



人的資本



知的資本



製造資本

新価値創造に向けた戦略・施策

海外市場では、通貨処理機だけでなく、デジタルサービス「UBIQLAR™」による機器情報のモニタリングをはじめ、新領域事業である非現金製品・サービスへの品質保証活動強化も図っています。

また、「2023中期経営計画」期間中に買収した企業の品質保証活動にも参画するとともに、各開発パートナーと企業の垣根を越えた活動を行うことで、世界中のお客さまに対して高付加価値の製品・サービスを提供していきます。



実機を使用した海外向け製品の評価作業

国内市場では、お客さまに満足して製品をお使いただくため、新たな評価技術を探求しています。評価技術の向上により、精度の高い検証を実現し、市場における不具合の未然防止を図っています。さらに、ソリューションビジネス全体の品質を管理する体制の構築とともに、メンバーのスキル向上にも取り組んでいます。

また、海外事業担当部門、国内事業担当部門双方の品質保証にて得られる技術ノウハウや成功・失敗事例を共有し、相互のレベルアップを図っています。



機構の細部を確認し、操作性や安全性を確認

今後の展望

品質保証手法のさらなる深掘りに加え、ロボットやDX、AIを活用した効率的な品質保証を行います。これにより、人材を「製品不調の予測」「使いやすさ」など、新たな指標での品質管理業務にシフトし、一層高品質なソリューションを提供し続けます。



バリューチェーン 生産・調達

バリューチェーンにおける役割

お客さまに満足していただける製品をお届けするため、本社工場・埼玉工場を中心に6ヶ国13拠点のグループ生産工場で、約4,000名が一体となり、最適な生産体制を構築しています。モノづくりの原点である「品質の良いものを、安く、タイムリーに作る」を念頭に置き、たゆまぬ改善を行っています。

競争優位性

開発系本部と品質保証系本部との連携により開発段階におけるモノづくりでは「試作～量産化のプロセス」の見直しにて「初期品質の作り込み」と「手戻りの削減」を目指しています。

また、グループ内での生産最適化により、「生産性を追求した内製化」「高品質の実現」「効率化した社内外物流」「量産組立の集約」により「究極のモノづくり」を確立させます。

課題	大口商談に伴う生産変動への対応	戦略	市場ニーズに応じて市場や製品ごとに最適な生産方式を見直し、営業部門との連携による変動しやすい販売計画を生産計画へ落とし込むフローを構築
課題	より効率的な生産性の追求	戦略	IoTを活用した生産性の向上(スマート工場の推進)により、生産の全拠点を集中管理して現場監督者の負担を軽減、マネジメント力を向上

関係する価値の源泉 >>>



人的資本



知的資本



製造資本



自然資本

新価値創造に向けた戦略・施策

生産部門では、拠点型組織から機能型組織へ体制変更し、マザー工場機能、モノづくり機能、サプライチェーン機能の3本柱で戦略を立てていきます。将来的には関係会社を含んだモノづくり全体の最適化を推進するために、業務プロセスの共通化を通じて、基幹システムによる一元管理を実現させて、無駄を極限まで省いたリーナ生産体制を実現します。

国内市場では新紙幣発行に伴う増産に対して、協力会社の拡大や派遣社員の増員等で乗り越えました。今後は関係子会社や協力会社も含めて、平常生産時の生産性向上のため、工数面だけでなく採算面も再考し、生産体制の再構築を目指していきます。

海外市場は市場変化が速いため、生産台数や仕様変更など今まで以上にフレキシブルな対応が求められます。生産本部が主体となって、マザー工場機能として、海外の各生産拠点に向けて、技術面だけではなく生産計画や品質管理、在庫回転など連携強化を進めていきます。

さらに、生産のイノベーションとして、工場のDXを推進し、スマート工場の実現に取り組んでいます。全生産拠点で積み重ねてきた各生産データをIoT活用によって連携し、部品製造、組立製造ラインや設備のモニタリングによる効率的な生産のほか、実績管理等についてデータドリブンによる迅速な意思決定を行うことで、出来高、品質、リソースの管理を強化します。

今後の展望

継続的に製品を供給するため、半導体をはじめとした調達リスクの低減に取り組みます。トレンド分析による適正在庫の維持のほか、BCPの観点からサプライチェーンの見直しを行います。

これらすべてを実現するべく、新紙幣発行対応完了後の「生産新時代」を生産本部一丸で切り拓いていきます。



部品製造の様子



製造現場では、作業進捗をタブレット端末へ入力



入力されたデータを瞬時に連携し、一元管理を実現

バリューチェーン 保守

バリューチェーンにおける役割

ソリューションを導入いただいたお客さまに、常に安定した稼働運用を提供するため、定期点検による故障の予防と、訪問修理による素早い復旧に取り組んでいます。国内においては、100ヶ所以上のサービス拠点に、約1,000名のテクニカルスタッフを配備し、海外においては30ヶ国以上の現地法人で約3,000名のテクニカルスタッフを配備するとともに100ヶ国以上の代理店によるメンテナンス網を築き、金融、流通、飲食、遊技の各市場における幅広いお客さまへ安心感のあるサービスを提供しています。

競争優位性

テクニカルスタッフ約4,000名による国内外を網羅した直接メンテナンス体制のほか、テクニカルスタッフ教育、コールセンター、リペアセンター、部品供給等の手厚いバックアップ体制を自社内で整え、グローバルな基幹システムを活用したハイレベルな保守サービスを提供。

課題 海外リテール市場の拡大対応

戦略 保守対応時間拡張体制の構築、デジタルサービスの「UBIQULAR™」拡充

課題 グローバル顧客への対応

戦略 サービスレベルの標準化

関係する価値の源泉 >>>



人的資本



社会・関係資本

新価値創造に向けた戦略・施策

保守部門では、迅速かつ確かなメンテナンスサービスによる顧客満足度の向上を目的に、市場で稼働している製品を監視システムと接続して、常時監視するサービスを国内外で展開しています。

海外市場では、デジタルサービス「UBIQULAR™」を活用し、予兆保守（製品の故障を事前に予測して対処する保守）によって製品の稼働率を上げ、お客さまの生産性向上に貢献します。今後は、接続台数の拡大を進め、リモートダウンロード、ソフトウェア管理・更新サービス、ダッシュボードサービス、顧客現金管理効率化サービスといった付加価値の高いサービスの提供を進めます。

国内市場においても、「モニタリングサービス」として、金融機関及び医療機関のお客さまに対して、より一層の安定稼働と事務効率向上が実現できるサービスを提供しています。金融市場では、通貨処理機の自動精査を夜間化し、精査の監視と結果報告を行い、精査業務の負担を軽減する精査レスソリューションを展開しています。



国内市場でモニタリングを行う「モニタリングセンター」の様子



直接メンテナンスによるハイレベルな保守サービスを提供

今後の展望

予兆保守の実現による製品の安定稼働、テクニカルスタッフのパフォーマンス改善、データを活用した部品需要予測、技術情報のデータ化によるサポート強化といった保守の効率化、テクニカルスタッフ教育やツール拡充による顧客満足度向上に継続的に取り組み、金融・流通・飲食・遊技の各市場を支えていきます。